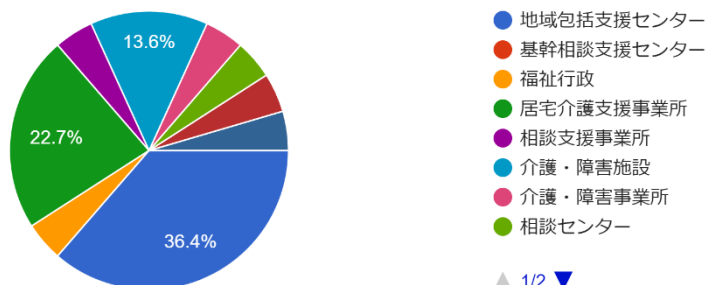


R5/7/20 開催 本人の権利から考える「本人主体の事例勉強会②」振り返り

職種

22件の回答



▲ 1/2 ▼

今日の、事例を通して学び、思ったこと、気づいたこと。
感情に配慮すること、できることを探すこと
本人の立場になって考えることの大切さと、 本人の思いを大切にしていくためにも、 障害の理解と能力評価ができることが、専門職として必要なことと実感しました。
相手が不快感を表した際に、しっかり謝罪をし、その後も良好な関係性を保っているという事は普段から、本人とのかかわりが「困ったこと」のみのかかわりではないのだなということを感じた。結果を急がずに「穏やかな」かかわりを心掛けていきたいと思います。
支援にあたって当事者主体であること、出来る部分に着目すること、感情に配慮することを改めて確認することができた。
「認知症」での運転について、正直なところ「命」優先の考えが先行しており、警察署と一緒に「返納」してもらうための方策を考えることが多かったのが現実でした。 今回の勉強会では、不確実な「〇〇かもしれない」と考えることが、本人の能力を正しく評価することができなくなっていた原因と気づくことができ、支援者の「白か黒か？」の考え方が本人のできなくなったところだけを見ってしまう要因だったと反省しました。
認知症の方は何もできない人と決めつけてしまう傾向がある 何事例もこなしていても、同じ人は二人としない グループワークの中で前回も今回も、自分では良かれと思っただけの言葉だった。良かれと思って考えて行った・・・という意見がいつも出ます。 毎月勉強会に参加して支配感を頭の中から消せればいいなあと思いました
ヒトは他人の行動を善悪で判断しやすいこと
感情に配慮する、寄り添うという事がとても大事だと気づかせていただきました。
本人の気持ちに配慮すること、考えることが、日頃忘れていたことだなあと思いました。

<p>こうして、勉強会に参加することで良い振り返りの機会になりました。 ありがとうございました。</p>
<ul style="list-style-type: none"> <li>・できないところや支障となっているところをみることはあたりまえだが、できているところ。こうするとまだできる、というところもきちんと確認しなければいけないこと。</li> <li>・不安や心配が先にきてしまい、実際に支障のないところまで制限してしまうことのないよう、しかし本当に危険が伴わないか、しっかり情報収集や分析を行い明らかにしたうえで、対応していく。</li> </ul>
<p>自分の思い込みに気づいた</p>
<p>本人がどう思っているか？まずはそこを確認することから始める。車の運転する必要性は何なのか？生活していくためや、奥さんの介護をしていくために必要なこと。物忘れが増えていることや認知症と診断されたことは事実ですが、だからといって他者が免許の更新や運転をしてはいけなさと決めつけることはしない。出来ることがあるなら、継続出来るように支援して、難しくなっていることは一緒に考えて出来るような支援をする。そういう考え方を今回の事例で学べたように感じました。</p>
<p>自分が担当するケースでも免許返納に至った似たようなケースがあり共感しながらの事例勉強会でした。普段の業務ではどうしてもリスク管理の意識が働いてしまい「できることの評価」が後回しで、本人の味方として寄り添うことができていなかったと気づきました。本人主体という視点において非常に学びの多い事例勉強会となり、自社での勉強会の開催に向けて参考にしたいと思いました。</p>
<p>事例検討の目的は、その事例から学ぶことであること。本人のできていないことを挙げるのではなく、できていることにフォーカスすること。そのことに気づけなかった自分がいること。</p>
<p>困っているのに配慮してもらえないのはつらい。困っているけど困っていないという人が沢山いる中で、困っているということを引き出せるようにすることが大事で、認める、ねぎらうなど心がける。意思決定支援の土台は、日頃からの関わりが大事と言うこと。</p>
<p>本人のできることを見つけて認める。生活に活かす。</p>
<p>基本的にはいい人ばかり登場する事例。皆よかれと思って関わるが、かみ合わないと感情的になる。 グループではYさんの妻を思う気持ちに注目が集まった。おそらくYさんは「妻と自宅で暮らし続けること」が最上位目標にあり、運転免許についてのやり取りもそれを守るための手段であると思った。 ご本人にとっての最上位目標が何なのか見出し、確認し、共有することが大事な仕事であると改めて確認できた。</p>
<p>本人が十分納得していないのに、周囲の根拠のない漠然とした不安のため、先回りして</p>

物事を決めてしまうのは、「支援」ではなく「支配」だという言葉、重く受け止めました。「本人を普通に見る」分かっているつもりでも「認知症」＝「○○が出来なくなる」というイメージが払拭できない自分に気がつきました。運転については、高齢者の事故がクローズアップされることで、社会全体が、高齢者の運転に厳しい目になっているのかなと思います。事故を起こした人が「高齢者」だったり「認知症」だったとして、「高齢者」や「認知症」の人が必ずしも事故を起こす人ではないことを、整理して考えていけたらよいと思います。

相談をしたのに、周りに味方がいなくなってしまうのでは困る。というグループでの意見がありました。 本当にそうだなと実感し、誘導、説得がどうしても抜けないと反省しました。

Yさんの事例を通して、「認知症」について、自分が捉えている理解が一方的なものであると改めて考えさせられた次第です。「認知症だから、ダメ出来ない。」などと、常に決めつけがちではなかったのかと反省させられました。なので、主体である障害を持つ方々にとって、支配ではなく支援となる視点で行動したいと思います。

自分では気づかなくても、本人を説得しようとしていることもあったと感じた。支援しているつもりが、支配になっていることに気づかないで行っていることもある為、自分のかかり方を振り返るようにしたい。

普段の仕事として考えると、事例提供者の方の対応を、私も取ったと思います。このような本人主体の関わり方を通じて、運転を自ら止められるようにご自身に考えてもらえるようにすべきだと考えました。これが車の運転でないなら、残存能力の尊重でしょうが、免許の更新はおろか、保険に入っていなかったとすれば、事故を起こした時にケアマネの責任ではないにしろ、本人も妻も家にいられなくなると思います。ただグループの中で、運転を肯定するような終わり方だったので、どうかと思いました。。

その他、思ったこと、感じたことなど。

支援者として”こうなってほしい”といった姿はあっても、本人主体の視点は忘れてはいけないと感じた。

学び続けることが大事だと思います。

「困難事例」から学ぶ機会を得て、自分自身の日々の対応の振り返りができとても勉強になりました。事例勉強会を開催する立場として、グループワークを通しての皆さんの意見を参考に視野を広げて自分の引き出しを増やしたいと考えます。

できること探し、わかること探し！！

良い言葉だなあと感動しました
プレゼンの時間はもう少し短くてもよいかなあと思いました。
意思決定支援は普段からの関わりが大事だと改めて思い、日頃から意識して行きたいと思います。
<ul style="list-style-type: none"> <li>・いくらその場だけ前向きな提案や話し合いを行おうとしても、普段からの関わりが良い関係でなければ意味はない。普段から認め、尊重し良い関係を作っていくことが大事であること。</li> <li>・一度壊れてしまった信頼感、関係性を戻すことは容易ではないが、あきらめず良い関係性に戻れるよう、日頃から認め伝え、尊重する関わりを行っていきたいと思います。</li> </ul>
人それぞれのストレンクスがある
事例勉強会は今回が初でした。グループの方々の考えや意見交換ができ勉強になります。リモートではなく対面式があれば是非参加したいと思います。
違う職種の皆が集まり話すということの大切さと、この機会への感謝。
(上記のように)そうはいつでも、やはり 365 日一緒にいる家族は心配が尽きないし、何とかしたいという気持ちはぬぐえないだろうから、押さえつけない、奪わないようにお互い折り合いをつけていかないといけないのではないだろうか？
前回はそうですが、グループになったときに、勝手に発言の順番を振ってしまっているため、実は不快に感じていた方がいらしたら申し訳ないです。
「自分のこととしてとらえる」この頃、特に切実に考えます。自分がもう少しして(今でも十分ありますが)物忘れが進んだら、周囲や家族から、何らかの制約を受ける生活になるのかな、自分は最後まで自宅で生活したいけど、家族や周りの安心のために施設入所を考える事もあるのかな などなど。その時々私に私気持ちを受け止め、代弁、支援してくれる人がいれば良いなあと思っています。
現在車の運転について相談を受けているケースがあり、本当にタイムリーでした。どうしても家族の気持ちという部分も理解ができてしまうのですが、しかし、自分がどの立場でかわっていて、どのような役割があるのかをもう一度整理することで、自分がどのようにかかわるべきかが明確になりました。
勤務先でも、日々問題が起こりますが、これが本当に困った問題なのか、それとも、支援者側の都合による解釈に基づく支配的なものなのか、皆で一つ一つ吟味していくことができないかもやもやしています。まずは、利用者の「感情」に留意しながら、少しでも心を開いてもらえる仕事になるようあたっていきたいと感じました。
免許証返納については、悩ましい問題だと感じている。
アセスメントする時、できないことから考えがちですが、できることへの視点でやってみた

いと思います。